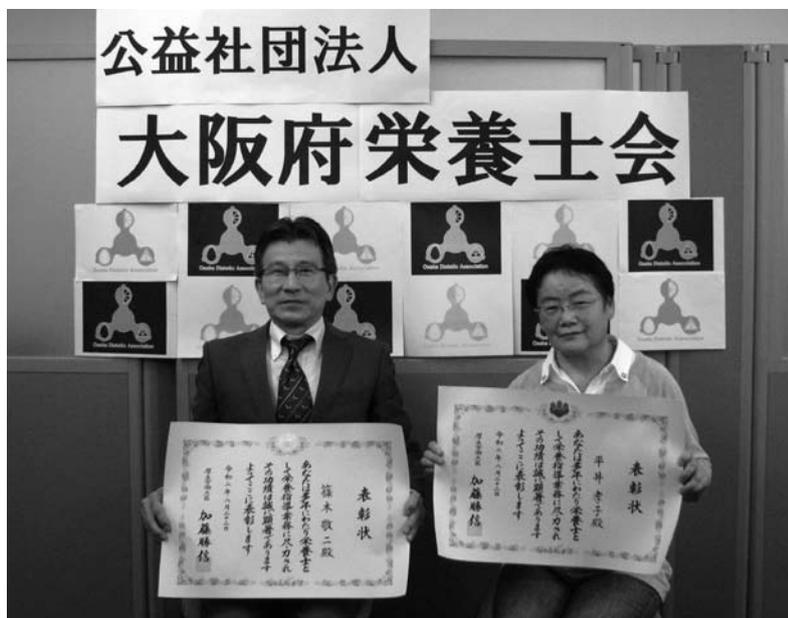


厚生労働大臣表彰受賞おめでとうございます！

厚生労働大臣表彰受賞者



一般財団法人若さの栄養学協会
平井 孝子（栄養指導業務功労者）

箕面市立病院
篠木 敬二（栄養指導業務功労者）

栄養指導業務功労者

現在、栄養士の免許を有する者であって、常に第一線に在って実際の栄養指導業務を担当し、栄養士としての活動に特に顕著な功績を有すると認められる者とされている。なお、受賞者については、大阪府栄養士会が会員の中から、その人の功績を鑑み、大阪府へ推薦し大阪府が厚生労働省に推薦し受賞されたものです。

厚生労働大臣表彰を受彰して

一般社団法人 若さの栄養学協会 平井 孝子

この度は、思いもかけず厚生労働大臣表彰をいただき、身に余る光栄に、ただただ恐縮しております。

栄養士の養成校を卒業してから早や52年。病院勤務10年、その後は地域活動栄養士部会に属し(一時期東京で)、主に高齢者の健康を食生活から支える活動に従事してきました。というのは(一財)若さの栄養学協会の季刊誌第1号(昭和48年)の初めの言葉に初代理事長の高井俊夫先生が『朝、一夜の快眠からゆっくり目覚めると全身に生気がみなぎっている。身体が軽い、外は6月の若葉、さあ今日も元気で!』このような毎朝を、60、70、80歳になっても迎えたいものです。こんな爽快な朝を迎えることのできるための食生活運動を始めましょう。」と記されています。この言葉を胸に、健康な高齢期を迎え、過ごすための食生活を、生活習慣病や老化予防のための指針「若さの栄養学6か条」及び国の作成した食生活指針、パソコンによる食生活診断、食事バランスガイド等のツールを使って「何をどれだけ食べれば良いか」を示し、栄養士養成校時代に叩き込まれた栄養バランスを調えた献立作成や美味しい食事作りの調理方法を、講話や実習を通して地域の方々に伝えてきました。

振り返りますと養成校時代の恩師、病院時代の先輩諸氏、東京在住時に声かけしていただいた地域活動栄養士の先輩、大阪に戻り、栄養士活動に再び誘って頂いた同窓生、現在所属している若さの栄養学協会のスタッフの皆様、長年従事している「高齢者の栄養改善講座」の管理栄養士の方々に支えられてきました。また皆様の「正しい食生活が健康な社会を作る」への熱い思いと弛まぬ真摯な仕事の姿勢に後押しされてきました。感謝の念に絶えません。

今我が身も高齢期に入りました。「活力ある高齢者社会作り」を通して、「正しい食生活は身体を調える」をモットーにして爽快な朝を迎えるための食生活運動を地域の中で変わらず伝え続けて行こうと思います。

箕面市立病院医療技術局
栄養部 篠木 敬二

今年は新型コロナウイルスの対応により、かつて経験したことのないご苦労の中でお過ごしのことと思います。

私の職場(病院)でも、新型コロナウイルスの感染防止に配慮しつつ、どのように業務をすすめていくか、もし感染者が出たらどう対応するかなど、新たな局面に備え、体制を整えつつ業務を行っているところです。

そうした日々を送る中、去る9月30日栄養士会事務局において、特別なご配慮、対応により、授賞式を行っていただきました。藤原会長から厚生労働大臣表彰を授与していただき身に余る光栄に心引き締まる思いでした。受賞と共に、このご配慮に感謝感激をいたした次第です。

思い起こせば、卒後すぐに病院に勤務した私に、本当に基礎基本の仕事を一から教えていただきました諸先輩先生方々への感謝の念に堪えません。日々を送る中、自分を支え、営んでいるのは自分自身と思い日常を送っていましたが、今この年になってあらためて思うことは、人が人を支え、人を育て、次の世代がより大きく、自分より更に大きくなっていくということが、今になって、やっとわかったように思います。

新米のころの、あの調理師、あの先輩栄養士からの様々な言葉が今も記憶に、心に残っています。次々に蘇って現れるのは、私も少し歳を取ったせいでしょうか。これまでも人に恵まれ、周囲の方のご支援の下、今日まで病院栄養士として仕事に邁進できたのだと思います。このことは何よりの財産であります。

この夏60歳還暦を迎えました。来春には退職を迎える私ですが、この機に、思いを新たにし栄養の力が見直される今、病気を免れる力、免疫力につながる栄養・食事の実践のために役立つことができるよう、さらに努力をしていきたいと思っております。有り難うございました。